

牛久：学校周辺に見る自然

第17号 牛久二小

2013年9月3日発行

＜ 夏の校庭で生きもの観察 ①花と昆虫 ＞

むし暑い7/3、牛久二小4年生の皆さんと、校庭の生きもの観察をしました。春のようすとくらべ、何がどう変わったかを観察しました。今回は、当日咲いていた花と、そこに来ている昆虫たちの紹介です。



アベリア(左)と、そのみつを吸うトラマルハナバチのメス(右)。

甘い香りを漂わせるアベリアの花にはトラマルハナバチが来て、さかんにみつを吸っていました。



ガクアジサイ(左)と、その花粉を食べるヒラタアブのなかま(右)。ハチに似ているが、ハエに近いなかま。

まわりに飾りの花を並べて、ガクアジサイがきれいに咲いていました。そこではとても小さなヒラタアブの仲間が、花粉を食べていました。花とくらべると、いかに小さいかが分かるでしょう。



ハキダメギク(左)と、その花粉やみつを食べるヒラタアブのなかま(右)。

ハキダメギクのかわいい花にも、ヒラタアブの仲間が来ていました。はきだめ(ゴミ捨て場)で発見されてこの名がつけられたそうですが、実際にはもっといろいろな場所に生える雑草で、たいへん気の毒な感じがします。



ビヨウヤナギでは、ツマグロキンバエが花粉やみつを食べていました。「ヤナギ」といってもヤナギの仲間ではなく、オトギリソウの仲間。葉がヤナギに似ているところからつけられたようです。ツマグロキンバエは複眼(ふくがん)のもようがおもしろいですね。ハエは糞や死骸ふん しがいに集まるものばかりでなく、花に来るものもいるのです。

ビヨウヤナギ(左上)と、その花粉やみつを食べるツマグロキンバエ(ほか3枚)。



トウネズミモチは甘い香りですが、ちょっと強すぎてむせるようでした。いろいろな虫が来ていましたね。中でも多く見られたのは、ツマグロキンバエとコアオハナムグリ、クマバチなどハチの仲間でした。時々ツマグロヒョウモンなどもやってきて、みつを吸って行きましたね。【理科支援員：宮内】トウネズミモチ(左上)と、やってきたツマグロヒョウモン(中左2枚：左がメス、右がオス)、コアオハナムグリ(下左2枚：角度で色が少し変わって見える)、ツマグロキンバエ(下右)、クマバチ(中右)。

